情報局編輯
週報
昭和十一年十月一日第三種郵便物認可
昭和十九年五月十七日印刷
昭和十九年五月十七日發行

決戰必勝

五錢

五月十七日號

海軍記念日を迎へて

戰局の現狀と總力戰

甲種豫科練の募集について

戰時農園問答【2】

戰力增强生活倶新職場に想ふ

395號

情報局編輯

週報

昭和十一年十月一日第三種郵便物認可
昭和十九年五月十七日發行
毎週一回
水曜日發行

決戰必勝

五月十七日號

海軍記念日を迎へて

戰局の現狀と總力戰

甲種豫科練の募集について

戰時農園問答〔2〕

戰力增強生活倶新職場に想ふ

395號

五錢

週言

われ〳〵は今や大いなる試煉を受けつゝある。この戰ひに勝つために、物においても心においても、すべてを捧げて闘ひつゝある。全日本人は、未だかつて經驗しない深刻な體驗を積みつゝあり、その魂はより高くより偉大なるものに發展しつゝある。

われ〳〵が現實を超克して理想に到達せんとひたむきの努力をするとき、そこに苦しみがある。而して苦しみとは、この努力をわれ〳〵が内に感ずることであり、われ〳〵自身の努力の内面的感覺である。現實と理想との距離が大きければ大きい程、理想が現實に比して高ければ高い程、われ〳〵のなす努力は大きく、われ〳〵の積む體驗は深い。

しかしながら、この體驗を通じて、われ〳〵は一層偉大なる國民となり、戰勝の曉において、世界に臨み、全人類の運命をわれ〳〵の肩に擔ふのである。

樂に勝ちし民族は滅亡した。而して樂に勝つ民族は滅亡する。

深刻な體驗を通し、最後に勝利に到達する民族こそは、その體驗により、偉大なるものとなり、魂を練られ、未來永遠に崇高な生命を維持し、天與の使命を遂行し得るのである。

第三十九回海軍記念日を迎へて

決戰必勝の信號旗

大本營海軍報道部

Z旗、三笠の檣頭に飜る。

この決戰必勝の信號旗が揭げられたのは丁度、今から三十九年前の五月二十七日午後一時五十五分だつた。當時、唯々「東亞制覇の野望に燃えるロシアの侵略に對して、帝國の「獨立自衛」を確保すべく、我が國は眞に上下一致、三國干涉以來、臥薪嘗膽十年の敵愾心と敵撃滅の闘魂とをたぎらせて、その貪婪飽くなき野望を徹底的に粉碎撃破したのであつた。

ロシアの敗因は、その戰爭目的の不明徹なるため、我が國がこれ以上の戰爭繼續力を不可能視された時期であつたにもかゝはらず、遂に國内分裂の結果、敗退せざるを得なかつた。正に勝敗は紙一重であり、最後の五分まで堅忍敢闘したものに對してのみ勝利の榮冠は授けられる。そして戰爭は、敵が裏却しても「參つた」といはぬ以上、つまり抗戰意志を放棄せぬ以上、眞に勝利を得たことにならず、結局、それは人間と人間、意志と意志との戰ひであつて、戰ひの最後まで、火の如き必勝の信念と、如何なる困苦缺乏にも耐へる强靱な意志とに加へて、眞に渾然一體化した金剛不動の國内態勢を堅持する國民のみが、よく戰捷を獲得するものであることを、不滅の歴史的事實として我々に教へてゐるのである。

日露戰爭がさうであつた如く、大東亞戰爭は、「世界の恒久平和と安全保障の根本要件は、日本を地球上から抹殺することだ」とする米英の世界制覇の野望に對して、帝國の「自存自衛」を確保すべき民族死活の戰爭であり、その勝敗の結果は絶對嚴である以上、敵が抗戰意志を放棄するまでは絶對に中途半端な解決や妥協を許すものでなく、如何に中途半端な解決や妥協が將來に禍根を貽したかは、古來幾多の戰史が實證してゐるところで、我々はこの事實を想起すると共に、如上の點を先づはつきり認識し、把握するところがなければならない。

制海空權を獲得せよ

「ロシア海軍の名譽を擁護せよ」と皇帝ニコライ二世の信任と全國民の輿望とを擔つて、リボウ軍港を出航した東征バルチック艦隊は、鵬程實に一万五千浬の長途を、勝敗を唯々この一戰に賭け、鎖袖一觸の勢ひをもつて、アフリカの南端喜望峰を大迂回して來攻したのであるが、東鄕大將麾下の我が聯合艦隊は、これを朝鮮海峽に邀擊して一舉に殲滅し、遂に蒙古の大勝を博して日露戰爭の大局を決定したのであつた。

日本海海戰は、二十七日晝から始つて二十九日朝まで續いてゐるが、勝敗の數は、旗艦三笠が砲擊を開始してから僅々三十五分間で決定してゐる。

だが今度の戰爭は、ハワイ、マレー沖海戰以來今日まで、二十回に近い海戰が行はれたが、未だに大局を決定するに至らない。それは何故か――それは、全く航空機出現のためであり、その長足の進歩にほかならない。その現代戰の大消耗戰、大補給戰、大生産戰、大科學戰たる性格に最も適した強力絕大な機動力によつて、從來の海戰の方式と思想を一變してしまつたのであつた。

精戰で慘敗を喫したアメリカは、帝國海軍によつてはじめて示された航空戰力の威力によつて、逆にその教訓を生かし、全面的に軍需工業の轉換を斷行すると同時に、航空戰力を飛躍的に增強し、現在、太平洋全域に亘つてその大航空兵力を展開して、戰局の大勢を制せんと企圖してゐるのである。

制空權なきところ制海權もなく、昨年六月十六日のルシガ沖の戰鬪に對して我が大本營が、「ルンガ沖航空戰」なる新呼稱を用ひたことは、現代戰の實相を端的に表示したものであつて、現代戰においては、制海空權の確保なきところ斷じて勝利はない。

烈々たる擊滅精神

戰爭は文字通り苦戰であつて、斷じて樂戰ではあり得ない。日露戰爭は苦戰の連續であつた。こちらが苦しいときは敵も苦しいのである。この點、我々は、東鄕大將がいよ〳〵新來のバルチック艦隊を擊滅すべく、明治三十八年四月十七日、麾下全將兵に下した「戰鬪實施に關する訓示」を、もう一度、深く心に刻みつける必要があらう。卽ち、大將は

一、作戰は、萬事警戒を最要とす。油斷は大敵なり。細事にも寸時釋戒を怠るべからず。

二、戰鬪に於ける士氣の消長は、戰果に關係すること頗る大なり。戰場の經驗少きものは、大抵敵を强く見、我を弱く感ずるを常とす。是敵艦内の慘害等は、我これを見る能はざるも、我の被害は常に心目に觸るゝを以てなり。特に戰酣にして勝敗將に決せんとする際には、實際勝戰なるに自ら苦戰と感ずること多し。故に我苦戰する時は、敵はその數倍も苦しめるものと觀念するを可なりとす。古の兵家、これを七分三分の叶合と戒む。卽ち、敵七分我三分と思ふ、時が實際五分五分なりとの謂なり。

三、已に合戰するに當りては、又、防禦をいふの要なし。積極の攻擊は、最良の防禦なり。

四、戰術實施の要訣は、己の欲せざる所を敵に施すと同時に、敵より施されざるに在り。故に、斯くせられては、苦しむと思考することは、我より先づ施すこと肝要にして、常に先を制せざるべからず。

と訓示されたのであるが、日本歷史上未曾有の試練に直面した我々にとつては、正に決戰訓ともいふべきである。

だが、それにもまして我々の學びとらねばならないのは、烈烈たる元帥の擊滅精神である。それは丁度、五月二十八日の朝のことであつた。敵の司令官ネボガトフ少將は、戰艦二隻、海防艦二隻を率ゐて辛うじて鬱陵島附近まで逃げのびたのであるが、遂に我が主力艦隊に取り圍まれ、もはや如何ともしがたき狀態に陷つたので、軍艦旗を半降し、萬國信號によつて降伏の意を表した。

旗艦三笠の艦橋上でいち早くこれを認めた幕僚の一人は、「長官、敵は降伏の旗を揭げました。發砲を御停止になつては如何です」と進言したが、元帥はこれを聽かざる如く、默々として依然砲擊を續けさせた。そこで幕僚はさらに、「長官、發砲を止めるのが武士の情ではありませんか」と意見を具申したのであつたが、元帥は幕僚を徐ろに制して、「まあ待て、降伏旗は擧げたがまだ速力をかけてゐるし、砲口もこちらに向けてゐる。發砲を止めるは早い。」

かくて彼が速力を停止するや、直ちに發砲を止めて彼の降伏を容れ、三笠に招くに當つては、帶劍を許して武士の面目を保たしめたといふことであるが、恩威並び行はれ、敵を擊滅せずんば止まざるこの元帥の攻擊精神こそ、まさに、正にして武、武にして仁なる我が神武の本領を發揮したものであつて、我我は今こそ爛々たる武威を以て四海を睥睨し、敵を擊滅しつくさねば止まぬ神武に徹すべきである。これに徹すると、必勝の大道は驀然と開かれるであらう。

國力伸長の好機

日露戰爭當時の彼我の國力比は、陸軍力において、彼が平時總兵力二百万、戰時五百万を突破し、極東にあるもののみでも、約二十万を整備してゐたのに對し、我は後方を加へても、動員總兵力百十万を出でず、軍の編制裝備に至つては、

到底彼の敵ではなかつた。

また海軍力は、彼の五十一万餘トン（黒海、裏海艦隊を除く）に對して、我は總トン數二十六万餘トンといふ二對一の劣勢比率であり、一方、戰費は彼の二十三億五千万円に比し、我は二十億円で、その總額は餘り差異はなかつたが、我が外債は、連戰連勝してゐながらロシアのものより常に安値であつた。

今や敵アメリカは、その物量的優越こそ究極の勝利をもたらすものであると飽くまでも必勝を確信してゐる。敵も必死だ。その國家總力を擧げて一氣に我を押し切らうとしてをり、特に最近は大海軍力の建設について、猛烈な宣傳攻勢を行ひ、その世界制覇の野望を達成する基底をなすのは、七洋を制するに足る強大な海軍力であると昂然と豪語してゐるのである。

だが、彼等のこの侵略企圖が、果して彼等の豫定通り實施されるかどうかーすでに我が國は地理的にも、物的にも、そしてまた人的にも、必勝不敗の戰略態勢を保持し、東條首相の大號令一下、一億戰鬪配置に就き、その生産量も、統帥部の要求量さへ充足すれば、第一線の將兵は成算ある作戰が出來るといはれてゐるのであり、さらに我が實力の如何なるものであるかは、緒戰六ヶ月で、大東亞の全域を戡定した一事が雄辯にこれを物語つてゐる。特に萬邦無比の國體の下、一億純忠の至誠に燃える以上、我々は斷じて勝つ。そしてまた我々は絶對に勝たねばならぬ。

日露戰爭の大勝が、我が國の世界史的運命を拓開した如く、大東亞戰爭は、米英の侵略勢力から東亞を解放して、道義にもとづく新秩序を建設すべき皇道世界日本の運命を拓開するものだ。戰局の現狀は最も困難な時期に遭遇してゐるが、それは一面、我が國力を伸長すべき絶好の機會に際會してゐるのであつて、この運命は我々自身の手によつてのみ開拓されるのであり、その時期は今日を措いて他にない。

今や帝國海軍は陸軍とともに大詔の下、全軍の士氣ますます旺盛、誓つて護國の大任を完うすべく、敵擊滅に邁進してゐるが、我々は今こそ大日本の檣頭高く翩翻と翻る乙族の下、各自の戰鬪配置において各自の任務を完遂することが、とりもなほさず必勝の基礎を刻一刻築き上げるものであることを銘記し、承詔必謹、死力をつくして我が光輝ある戰爭目的を達成せねばならない。

國民座右銘 五月

十八日	吉凶は人によりて日によらず	參謀
十九日	我事に於て後悔せず	宮本武藏
二十日	仁者の心動きなきこと大山の如し、無欲なるが故によく歸なり	熊澤蕃山
二十一日	鞆の浦の磯なれのまゝに	月本雪鼎
二十二日	意固學は我が大和魂を磨くにあり	吉田令世
二十三日	檢約の仕方は不自由なるを忍ぶにあり	伊達政宗
二十四日	妻子に人の師とならべからず、又妻子に人を師とすべからず	吉田松陰

戰局の現狀と總力戰

東亞再侵略の開始

太平洋戰局は、去る二月上旬、敵のマーシャル侵寇を轉機として、米英の東亞再侵略の開始といふ劃期的段階へと突入するに至つた。卽ち、一昨年八月以來、一年十ヶ月に及ぶ敵の反攻は戰意、戰力些かも衰へをみせず、不遑にも、神聖なる帝國領土を新戰場と化す全く新たな樣相を露呈したのである。

しかも、吡々として侵寇の機を狙ふ敵は、三月二十九日パラオ、四月三十日トラックと、また〳〵十數隻の空母、戰艦を基幹とする機動部隊を以て來襲し、一方、四月二十二日には、ニューギニア島機動部隊掩護の下に、ニューギニア島ホーランディア及びアイタペ附近に一ケ師團强の兵力を以て上陸を開始し、同二十七日夜にも、敵の機動部隊がホーランディア西方沿岸を遊弋するのを發見する等、今や敵の機動部隊は我が內南洋、ニューギニア、ニューブリテン島北方海面一帶に亘つて出沒し、基地航空部隊また、東部、南部各方面から極めて緊密なる連繫の下に共同作戰を展開してゐることは、最近頻々として、サイパン、メレヨン、トラック、グァム等に對し、B24の如き行動半徑の大きい大型機が來襲する事實によつて容易に想像し得るところである。

このほか、ラバウルとその周邊地區並びに我が生命線ともいふべき南方資源地帶に對する爆擊は依然熾烈を極め、四月十九日には、一昨年三月我が軍が占領して以來はじめて、サマヴィル艦隊の機動部隊がスマトラ島西方海面に出現して、サバンを空襲するといふ新事態が生起し、他方、印緬、支那大陸、アリューシャン方面等、今や敵は太平洋の全周から我が心臟部めがけて決定的な打擊を加へようとしてゐるのである。

かくて、現戰局が如何に悽愴苛烈であるかは、太平洋全戰線における敵機の來襲が、二月の二万一千四十四機、三月の一万八千三百二十九機（以上中部太平洋を除く）、四月の二万四千九十七機なる事實によつて端的に實證されるが、それにもまして、その深刻さを象徵するものは、この一年間に、聯合艦隊司令長官である山本、古賀兩元帥が、

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ともに壯烈な機上戰死をされた嚴肅なる事實でなければならぬ。

現戰局の諸特徴

さて、太平洋戰局は、これを大局的に觀れば、我が本土爆擊、南方資源地帶の奪回、我が本土と南方地域との遮斷の三點を繞つて、日米の一大攻防戰が展開されてゐるわけであるが、さらにこれを仔細に檢討すれば

一、大海上機動戰の展開

敵はマキン、タラワ上陸以來マーシャル侵寇までに二ケ月、パラオ來襲までに一ケ月餘、さらにトラック再來襲までに一ケ月、その間、間斷なき連續爆擊を、實施した後、新作戰を展開してゐる從來の經過からみて、敵現在の間斷なき攻擊は、機動部隊を以てする次期新作戰開始の準備行動と斷じてよからう。敵は、マーシャル侵寇には、「艦船數百隻、總トン數二百万トン、主要作戰には空母二十隻、艦載機千機を出動せしめた」と發表してゐるが、現在、太平洋にはアメリカ全艦隊の主力が集結してゐるとみて差支へなく、「ニミッツ攻勢は、比島を經由して支那に達する中部太平洋を橫斷する廻廊を啓開するものだ」と豪語する敵の作戰企圖からすれば、敵は、今後も從來の「島傳ひ」作戰を一層推進するとともに、海上機動部隊の威力を放胆かつ縱橫に驅使するであらう。この點四月二十七日に公表されたハルゼー麾下の南太平洋艦隊の解散に伴ふニミッツ、マックアーサー共同作戰の强化は示唆するところが深い。それはひとり中部太平洋のみならず、ニューギニアを西進して我が南方資源地帶の奪還を狙ふ敵の積極的反攻企圖を表明するからである。

二、強備爆擊の强化—鐵量の戰ひ

敵はマーシャル侵寇には三日間に約一万五千トンの鐵量を叩き込んだが、これは米英空軍の四月中の對獨テロ爆擊の投下爆彈量七万四千トンの五分の一に當り、かゝる短期間に一地區に對する爆擊としては戰史に前例がない。敵は今後も、この鐵量に物を言はせるに相違ない。

三、空母勢力の重視—對日攻擊の一番槍は、空母の甲板から

敵の機動部隊の根幹が空母であり、アメリカが如何に空母勢力を重視してゐるかは、「對日攻擊作戰において、常に一番槍を承るものは空母勢力である」との米海軍航空局長ラムゼーの言明に徴しても明らかである。前海相ノックスの公言するところによれば、「現在、五十隻以上の空母が太平洋作戰に參加してゐる」とのことであるが、「米國は、目下、四万五千トン級の空母群を建造中だ」と作戰部長キングも最近發表してゐる。

現在、我が本土爆擊の公算最も多きは、東方洋上からであることに想到すれば、敵の空母勢力に對しては、不斷の警戒を必要とする。

四、敵の迂回戰法—基地設營力戰

敵はアッツ、ソロモンでもさうであつたが、我が孤點々々と迂回戰法をとる。マーシャルでも、敵はハワイから最も近いマロエラップ島や、ウォッゼ島及びギルバートから最短距離のヤルート島やミレ島には目もくれずに、一擧に、クェゼリン及びルオットに飛び込んでゐる。從つて、我が太平洋基地は全面的にこれを繼續不落化せねばならぬ。こゝに太平洋戰局が、日米の基地設營力の爭覇戰であり、その設營力の強弱が、勝敗に至大の關係あることを知るべきである。

五、科學戰的相貌—日米科學技術決戰

電波探信儀の登場が、戰略、戰術の革命的變化を來した如く戰局の現狀は、いよ〳〵科學戰的相貌を濃化してゐる。既に今日は、眞珠灣におけるが如き奇襲攻擊は、容易に出來るものではないが、新兵器の出現による奇襲攻擊は出來ないことはない。從つて戰局打開の道は、一にかゝつて新兵器の奇襲的出現によつてのみ期待されるといつても敢へて過言ではない。外電は一日として、敵味方ともに新兵器の出現を傳へない日はなく、現在交戰各國が、科學技術の總力を擧げて新兵器の考案作製に必死となつてゐる事實を忘れてはならない。

これによつて特徴づけられるであらう。

一億無條件全力發揮

このやうに戰局の現狀は國と國との體當り戰であり、國家總力を擧げての血戰死鬪である。それと共に今日の大消耗戰では、從來のやうなストックだけでは絶對に戰爭は出來ない。どうしても生產しつゝの戰爭でなければならぬ。そしてまた、第一線の戰力を常に維持增勢するためには、どうしても後方からの不斷の補給を必要とする。それから、あらゆる部面に科學技術力が無限に要求されてゐることは、戰爭が「人間」を主體とする當然の歸結であつて、大消耗戰、大補給戰、大生產戰、大科學戰が同時に行はれてゐるところに、現代戰の性格がある。從つて、この中の一つでも敗れれば、戰局は一弛し、一退する。どうしてもこれ等の戰ひを、同時に且つ全面的に戰ひ拔き、勝ち拔かねば勝利を得ることは出來ない。

そこで今日では、第一線に活躍するもの、海上輸送に從事するもの、國內にあつて工場で働くもの、食糧を增產するもの、家庭で一針の針を動かすもの、その他あらゆる人が老幼男女の別なく、**一億全員が同一の重要さと資格とを持つ戰鬪員である**ことが、理解されるであらう。そこには、もはや前線銃後の區別はなく、軍官民一本となつた形があるだけで、この全戰鬪員が總力を結集發揮したときに、はじめて國家の眞の戰力が生れる。これが總力戰であり、眞の體當り戰だ。

戰局は、たしかに苦しい。だがこれは我が方に戰略資源がないといふことではない。南方には世界最大の寶島がある。だが船腹の關係、敵潛水艦の海上妨害、現地に自己生產力、自己補給力がない等の事情のため思ふやうにいかない。とすれば、この際は鋤をくひし、ばつても國內で自給自足せねばならない。決戰輸送、食糧增產、鑛物資源の再開發、節電、企業整備、徵用强化、金屬回收、貯蓄等はみなこのためである。

一本の蒲鉾、一キロワットの電力でも、

全國的に集計すれば大きい。それ等がすべて敵撃滅の戰力となるのである。自分一人位と考へ勝ちであるが、戰爭をしてゐるのは、他の何人でもない。我々自身なのだ。

我々が以上の四つの戰ひを勝ち拔いて、戰力を飛躍的に增强すれば、次いで來るものが我が一大進攻作戰の時期であることは、餘りにも明瞭な事實でなければならない。敵は日本に時を藉すなと强引に反攻してゐるが、その「時」は一方にのみ味方するものではない。日米双方に、同樣に作用してゐるのであつて、我々はこの目前の「時」を一分一秒たりとも最大限に活用して、必勝撃滅の戰力をいやが上にも增强せねばならない。戰機は轉瞬にして推移する。我々は今こそ、總力戰の眞義に徹して、奉皇の誠を實踐によつて生かすべきであらう。

（大本營海軍報道部）

豫科練出身者が將官へ

若き純忠の熱誠を大空で發揮すべく、海軍飛行豫科練習生として海軍航空部隊に入つた若人は、支那事變以來、大陸の空に、太平洋のはてしない大空に、世界空戰史上不滅の武勳を樹てた。

そこで海軍では、この偉勳に應へ、且つ新進拔擢の途を識することになり、今回海軍武官任用令その他關係勅令を改正して、豫科練出身者でも將官になれる途を開いた。

即ち、豫科練出身者で特務士官である大尉に進級した際、成績優秀なものは特選によつて兵科將校たる大尉に任官し、その後は、海軍兵學校出身者と同樣の途を進んで、或ひは海軍練習航空隊高等科飛行學生、或ひは海軍大學校甲種または特修學生として採用され、爾後努力次第で將官まで累進することになつた。

右の改正は、四月十五日附の官報で發表されたが、蓋し人材擢拔の劃期的英斷といへよう。

甲種豫科練採用資格を改正

海軍では、近く本年度後期甲種豫科練の募集を開始するが、決戰の大空に活躍せんとする青少年の熱望に一人でも多く應ずるため、今度徵募規則を改正して、その採用資格を擴大した。即ち、

一、學力試驗程度

從來は、中學校第三學年修了程度であつたが、今度は、中學校第三學年第一學期修了程度となつた。

二、學力試驗科目

從來は數學・物理・國漢文・地歷であつたが、今度は數學・物象・國語の三科目となつた。

海軍では、全國の青少年が奮つて豫科練に應募し、ともゝ〳〵太平洋の決戰場に赴く日を待望してゐる。

なほ今度志願できる者は、この十二月一日現在で滿十五年以上二十年未滿（大正十三年十二月三日より昭和四年十二月二日までに出生）の者で、身體檢査は各鎭守府ごとに七月中旬から、また學力試驗は全國一齊に八月二、三の兩日に施行される豫定である。

このほか詳細は市區町村役場について問合せていたゞきたい。

（海軍當局）

新職場に想ふ

力強き生活例　營團發表

命を倍に

鶴戸市林田區　花山朱三

私の職場に、應徵された者ばかりの技術試驗が行はれたときのことでした。この試驗は一刻も技術をあらそふのですから、みな一生懸命でした。このとき、竹田工員は第二番の工員よりも早く旋盤を切りあげましたが、自分の機械に祈りを捧げたために、二番の工員がこの間に一番になり、竹田工員は二番になつたのでした。

しかし竹田工員は、少しも悔いるところなく、この技術試驗を終つたのでした。何と立派な態度でせうか。普通の者ならば、一刻をあらそふ技術試驗ですから、このやうな行爲はしなかつたでせうに、竹田工員はいつも始業半時間前に入場して機械の點檢をし、始業の時には、必ず合掌してからかゝり、終業のときには、よく掃除をして一日の祈りをするのです。

ですから、始業前半時間、終業後半時間は自分の機械に對して敬虔の心をもちつゞけてゐるのです。機械を愛し、機械に祈りつゞける竹田工員の行爲に對して、應徵士の一同は冷やかな眼をむけてをりましたが、この無言の教示がいつか一同を感化させずにはおかなかつたのです。

そればかりでなく、一日一篇づゝの增産を斷行したのであります。覆い工員より潤山製品をやりますときは覆い工員の非常な壓迫を覺悟しなければならなかつたのです。これは賃金の關係もあつたのですが、竹田工員はこの悪い慣習を打ち破つたのです。

地位も名譽も金錢もいらぬ。私心なくあらゆる犧牲を乘り越えて、生産增强のためにさゝげたのであります。勝つために、たゞ勝つための眞へ、竹田工員は一日の休勤もなく遲刻もなく勤勞の汗を流し、子供の危篤の電報にすら歸宅しなかつたばかりでなく、日夜の徹宵作業に耐へぬき、赤血した眼の療養を命ぜられても「俺のかはりは、誰がするのだ」とばかり頑張り通して、應徵士の亜範として命を倍に働きつゞけて、後がらつゞく入所の應徵士達を奮起させてをります。

默々精勵一途

京都府應徵士　桑田忠治

京都から愛知へ――驛頭の感激、後事一切引受けた健氣な妻、産業戰士のお父樣と嗚いだ子等、今や淡い映像となつて眼底に消えた。月餘、峻嚴な軍隊式の錬成に身も魂も切替へた。愚直精神の體得、出過ぎた者は引戻し、凹んだ者は押し上げ、何千分の一の一箇に仕立上げられる。

さて、いよ〳〵現場配屬だ。巨大な工場、轟々たる爆音、鏘鏘たる響音、〇〇工場特有の雰圍氣に壓倒されさうだ。若い班長の手慣れた動作、指先がヒリヒリ痛み、腰が決るまでのいひやうのない苦しさ。徵工だ、間拔けだ、と侮蔑的な聲も耳にした。何萬、倅のやうな少年工に負けるものか。工場從業員規律が分らない。こゝかしこで呶鳴られる。嚴しい拘束感に腹が立つ。でも虚心になつて默つて躾いてゆくと呑込める。寮朋に思つた時間制も、心の餘裕ができると五分間でも大きく使へる。他愛のない面白いものだ。

嫌で堪らなかつた給食行列も愉快な日課となつた。今までの味覺追求が罪惡だと悟れる。蔵

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

翠大發成、十二時間動詞が潰ひと流石に空腹と疲労感。夜空に燦く星の光で蜿蜒たる職友達と寮に急ぐ。

寮ではもう點呼が待つ。ゆつたりと入浴のひと時、尖鋭化した一日の神經が弛む。つと故郷への感傷が起る。これではいかぬ、と明日の持場の工程へ心機一轉、憎い米英、今も職友を殺してゐる鬼畜、この撃滅に直ちに繋がる我等の必勝生産。「みたみわれ力の限り働き拔かん」この奉公に心魂を徹しよう。

千六百度何者ぞ

（岩手縣釜石市　小野寺　豊）

初めて見る工場のすべては、「家庭にあつて、餘りにも節度のない生活をして來た者にとつては、只、驚きのほかはなかつたのでした。

私の與へられた新職場は、「鋼鋼工として千六百度の高熱と融つて鋼を造る爐前作業でした。

このやうな作業が自分に果して出來得るだらうかと、自分を疑はざるを得なかつたのでした。

しかし、過日南方第一線にゐる戰友からの便りに、前線の將兵達は一滴の水さへ呑むことも出來ず、祖國日本のために命を捧げて奮鬪されてゐるとのお便りを見たとき、私の胸に熱いものが漲つたのでした。

私心を去るところ、斷じて不平も不滿もないのだ。何のこれ位の暑さや作業にへたばつてなるものか。一刻も早く一機一艦でも多くの飛行機や軍艦や彈丸を造つて送らなければならない。

職場の先輩の工員諸君も、親切丁寧に指導してくれるので、日增しに作業にも馴れ、今では興味をもつて働けるやうになりました。

三味線を捨てて

（北海道岩内町字大濱一六八　横尾太郎方　田邊貴代子）

私達は三月八日、犬塚拳戴日に土地の慣效から〇〇木造船造船所に轉身、モンペイに地下足袋で働くことになりました。甲板の埋木や材料選び、仕上げのペテイ詰め等、手にまめも出來て、もうこれ位の仕事でしたら自慢してもいゝ位になりました。

最初は「三味線持つ氣ぢややれんぞ」などと彌次り飛ばされるのが一番こたへました。材料なども重いものばかりで、友達が倒れたこともありました。さういふ時ですら「さまあはねえ」冷淡な態度で、口惜しいと思ひました。でも日がたつにつれて、そのことは普通なことでした。そればかりか、その荒言葉にこもる決戰への鞭撻の心情をさへ感ずることが出來るやうになりました。

「なあに直きなじんで、面白味が出て來ますよ。何事も修練道場にゐる心がけで、勝つ氣でやつてごらんよ。若いあんたたちに出來んことはない」所長さんが言はれた。なるほど仕事がわかつて來ると、明日は何するといふことに勵みが生れる。ハンマーを揮ふコツもおぼえて自信がつきました。

煙草を吸ふ、食後だと休みばかりしてゐるみたいに見えた男の人たちも、「どれ〳〵、かういふふうにやるんだ」と仕事を教へてくれるやうになりました。「ものになつたぞ。ふん張れ、三味線ちや職さには勝てなかつたぞ」眞實をつくして指導もしてくれるやうになりました。私たちのひがみも吹ろ飛んで、いまではもう「何でも出來る」とまういふ心になりました。結局最初の心配は、「やらずの傳説」といふものでした。

× × ×

左の當選者の分は紙面の都合で割愛します。

集團生活の喜び

（兵庫縣尼崎市日高町　松本浩吉）

お知らせ

「戰力增強生活例」の募集は本題をもつて一先づ打切ります。

戰時農園問答

これは、「戰時農園の手引」（第四月三十六日號）に載つてお問合せに對する答です。

唐辛子の播付と手入れ

問　唐辛子はいつ頃播くのがよいのですか。また手入れはどうすればよいのでせうか。

（京都・決戰生）

答　たうがらしの種播は茄に準ずればよいのですが、一般には茄と同樣に專業者から苗を購入して植ゑるとよいでせう。なほ收穫は多少遲れますが、四月下旬から五月上旬にかけて種を直播してもよく、畦幅二尺、株間八寸位とし二本植とします。直播では點播または條播として苗と同じ程度に間引きます。肥料等は茄に準ずればよく、他に格別の手入れは要りません。

なすの追肥はどうやるか

問　茄の追肥をやるのは、根元から何寸位の所にやるのがよいのですか。

答　根の發育に應じて、次ぎのやうに距離をだん〳〵離して施します。

第一回、定植、活着後、株から三、四寸離して淺溝に施す。

第二回、株から五、六寸の所に溝を作つて施す。

第三回以後は畦の兩側に液肥として施す。

里芋に堆肥は惡いか

問　里芋の植付について、當地では芋が腐るといづて堆肥をやりません。ところが週報では、どちらも堆肥をやるやうに書いてありますが、これらは土壤によつて異ふのでせうか。

（神奈川・小川）

答　里芋には堆肥は是非ともやらねばなりません。その效目も大きいものです。堆肥をやると種芋が腐るといはますが、堆肥が種芋につかないやうに注意してやればよいのです。悪肥の上にすぐ種芋を播くと、種蠅の害を受けます。種蠅の蛆は、發芽しようとする嫩芽に喰込んで發芽を不能にさせます。種芋が腐るといふのは殆んどこれが原因です。

豆炭、亞炭灰の肥效性

問　豆炭や煉炭の灰は效目がないとのことですが、これらの灰の混つてゐる土地には蔬菜物は育たないものですか。なほ亞炭の灰はどうでせうか。

（仙臺・守屋）

答　豆炭、煉炭の灰は普通、效目がありません。たゞ近頃は、これにもいろいろの原料が使はれますので、一がいにいふわけにいきませんが、混つてゐる程度であれば、蔬菜を作るには差支へありません。なほ、亞炭の灰も大した效目なく、土地を酸性にする氣遣ひがありますから使はぬ方が安全です。

問　週報の戰時農園の手引には、かぼちやの摘芯をしなくてもよいやうに書いてありますが、摘芯するのとしないのとは、どちらがよいのでせうか。

（東京・藤田）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一圖　かうして芯を摘む

答　「戰時農園の手引」中、かぼちやの摘芯については十三頁と二十三頁で觸れてゐますが、よく讀んでいたゞけば分りますやうに、西洋かぼちやの場合は、親蔓によく實が成りますから、摘芯しなくてもよく、日本かぼちやでは平作りの場合は本葉四枚で摘芯し、たゞ立體作り等で蔓を早く陽當りのよい所に伸ばす必要のあるときは摘芯しない方がよいのです。

問　かぼちやの摘芯のやり方を圖で教へて下さい。（東京・技生）

答　本葉が四枚ぐらゐ開いたとき、圖のやうに芽の芯、つまり苗の中心の芽先を丁寧に摘みとります。摘芯は本葉が五、六枚開いてからでは手遲れです。

子蔓の伸ばし方は、芯を摘みとりますと本葉のつけ根から子蔓になる芽が出ますから、第二圖で分りますやうに、上から順に數へて、二本か三本（圖では二本の場合を示す）子蔓を殘し、地面に近い方の本葉のつけ根から出た蔓は、小さいうちにつみとつてしまひます。なほ陽當りのよい、平地作りの場

第二圖　二本仕立

合は第三圖のやうに四本仕立とするのも結構です。

問　西洋かぼちやの主蔓には側枝がたくさん出ますが、切つた方がよいのでせうか。

答　特に摘除しなくても差支へありませんが、たゞあまり蔓が繁つて重なり合ふやうなときには弱い側枝を摘除した方がよいでせう。

南瓜の肥料は淺い所にやるのがよいか

問　南瓜は肥料を吸收する根が、畑の表面から五寸位の所を横に伸長するといふことですが、一尺以上深い所に肥料をやるのは無意味でせうか。（東京・清水）

答　かぼちやの根は、比較的淺い所に多く蔓延するものですが、相當深くも入ります。從つて深く耕し肥料を入れれば、それだけよい結果を得ること勿論です。

問　かぼちやの立體作りで屋根に這はせたとき、夏の炎暑で屋根が燒けますが、その際、敷藁、特に果に敷藁をしないでもかまはないでせうか。

答　屋根に這はせたときには、かぼちや自身の葉で蔭ができますので、屋根はさう燒けません。しかし、果がぢかに屋根に觸れてゐるときには、觸れてゐる部分

第三圖　四本仕立

が燒けてかさぶたのやうになりますから、さゝ俵のやうなものを下に敷いてやります。

大果の種から小さな果

問　かぼちやの種子はデリシアス、赤皮、甘栗等、純粹なものがよいのですか、混種でも差支へないのですか。市場では混種が多く、また大果の種でも、小さいものが出來るのはどうしてですか。（北海道・阪口）

答　種子は純粹のよい系統のものならば、揃つた味のよいものばかりが穫れるわけですが、一般には殆んど雜交してをりますから、大きなかぼちやから取つた種でも小さなかぼちやが成ることがあります。

甘いかぼちやを穫るには

問　かぼちやを五、六年栽培してゐますが、いつもピシヨ〳〵のものばかりで、どうも甘い固いかぼちやが出來ません。土地が惡いのでせうか。（東京・佐藤）

答　水つぽい、まづい南瓜が出來るのは、地下水が高く排水が惡いためか、ゴミや下肥等のやうな窒素分の多い肥料のやり過ぎが主で、また種類のよしあし等にもよります。從つて、栗のやうにおいしい南瓜をとるには

（イ）　日常りのよい乾燥地に作ること、濕地であれば植ゑる所を高くするか、排水溝を掘ること

（ロ）　ゴミや下肥等を控へて魚のこやしや木灰等を十分にやること

（ハ）　種類は栗かぼちやの中村早生、黑皮栗かぼちや、赤皮甘栗等がよいでせう。栗かぼちやのいゝのは北海道のやうな夏、比較的涼しい所に出來るので、東京あたりではなるべく早く播いて、まだ餘り暑くならない間に穫るやうに工夫して下さい。なほ、かぼちやは照り年にはうまく雨の多い年にはどうしてもまづいものが多い傾きがあります。

アス地の利用には何がよいか

問　工場地帶のため石炭の燃殻屑（アス）で五尺も埋つてゐる土地ですが、こんな所には何を栽培したらよいのでせう。（群馬市・加藤）

答　石炭殻ばかりの土地ではだいぢの作物は栽培困難です。しかし、かぼちやならば坪に一ケ所位の割合で直徑二尺位、深さ一尺以上の穴を掘り、これに他からよい土を運び入れて作れば立派に出來ます。また、普通の土の上に石炭殻をまいたやうな所は、そのままでは何も出來ませんが、下の土と上に、石炭殻を下に反轉（天地返）し、堆肥を與へたり客土すれば、たいていのものは作れるやうになります。

（回答・農商省）

日本出版會（第十回）推薦圖書

讀者層	書名	著者・譯者	大きさ	定價	發行所
國民一般	デュクルミン	大日向一郎	B六	〇・三〇	朝日新聞社
專門	航空流體力學	佐々木達治郎	〃	八・八六	共立出版株式會社
〃	新撰醫體病學	宮川米次郎	B五	二七・六八	南山堂醫書店
〃	船舶原價計算	山崎一郎	A五	五・八〇	千倉書房
幼兒	ムラノエウチエン	西田德文	B五	〇・九七	正芽社
	川島はるよ畫				

週間日誌

五月五日(金)

▽殉職の古賀大將、元帥府に列せられ、特に元帥の稱號を賜はり、功一級に敍せられ、金鵄勳章、旭日桐花大綬章を授けられ、正三位に敍せらる

▽聯合艦隊司令長官古賀峯一大將、前線飛行機上にて全般作戰指導中殉職(三月)、後任には豐田副武大將親補され、横須賀鎭守府司令長官に吉田善吾大將親補の旨、大本營發表

▽學徒勤勞實施要領に關する件、工場・事業場等學徒勤勞動員受入側措置要綱の內容を文部省發表

五月六日(土)

▽昭和十九年產麥類の供出確保に關する件(五日閣議決定)の內容を情報局發表

▽運輸通信省に顧問設置され、八田嘉明、寺島健、大橋八郎の三氏仰せ付けらる

▽殘る五農工銀行(愛知、茨城、岡山、神奈川、福島)の勸銀合併を承認(實行期は八月中に完了の豫定)した旨、大藏省發表

▼インド政廳、ガンジー翁を釋放

五月七日(日)

▽故古賀元帥、帝都へ無言の凱旋

五月八日(月)

▽貨物自動車緊急整備實施に關する件を次官會議で決定

五月九日(火)

▽陸海軍部隊の四月中の對敵航空部隊戰果を大本營發表

一、敵に與へたる損害

南太平洋方面―擊墜三三二(うち不確實三三機)、擊破一〇一

中太平洋方面―擊墜一四七(うち不確實六機)、擊破五四

ビルマ方面―擊墜七四(うち不確實二五機)、擊破または炎上六六

支那方面―擊墜二〇、擊破または炎上二〇

北太平洋方面―擊墜一、擊破一

合計―七一六機(うち不確實四三機)

二、我が方の損害

自爆未歸還　九〇機

地上における損害　八五機

合計　一七五機

▽十八年度國民貯蓄增加實績に關する件(十八年度を通ずる貯蓄增加實績は三百九億八千八百萬円、目標突破額は三十九億八千八百萬円(一割四分七厘七毛)、昭和十二年支那事變勃發以降より昭和十八年度末までの國民貯蓄增加實績累計は千億円を突破)を情報局發表

▽被徵用者等勤勞援護強化要綱(決戰非常措置)、勤勞者用住宅緊急整備要綱を閣議で決定

▽宗教による教化活動を強化促進する方策に關し文部省發表

五月十日(水)

▽本年度の大學高專入學者選拔方針の大綱を文部省發表

▼樞軸軍、セバストポリを撤收

▼前海軍長官ノックスの後任として、現海軍長官代理ジェームス・フォレスタル昇格に決定

週風塔

古賀提督に續け

昭和十八年五月二十一日、山本提督の戰死が發表されてより約一年後の今日、第二の我等が司令長官、古賀峯一大將殉職の悲報が發表された。一億國民の復仇の信念は火と燃え上つた。今こそ我等は一致團結して仇敵米英擊ちてしやまむの鬪魂もつて精進せねばならぬ。徒らに暖衣飽食を貪つてゐる時ではない。虛榮心を捨て、心眼を大きく開いて、突き進むべきである。そして我等は、山本、古賀兩提督を始め、幾多の英靈の前に決死決勝を決意しようではないか。

(東京都本所區　向井正男)

悲報に思ふ

古賀司令長官殉職せらる―痛恨の極みである。緒戰のはなばなしい勝利のあとをつがれ、雖渾な作戰をなさんにも、われわれの航空機補給の生產能率これに伴はず等の諸態勢に制肘せられ、血涙を呑み唇をかみしめての忍苦、守勢の局にあたられし御辛苦の如何ばかりだつたかを思ふとき、まことに申譯なく思ふ。

航空機增產の刻下焦眉の急にこたへての、われわれの努力が正しく米英擊滅の軌道にのつてゐなかつたのではなかつたかを思ひ、直接つくる者の責任を深く感じると共に、われわれを率ゐてゆく諸幹部の至誠奉公の熱意に、一點反省するところなきかを思ふのである。

責任を果し得ず腹を切る位は極端にいへば簡單である。が、しかしその責任を果し得ないまでにいたつたことによつて、祖國をして打つべき作戰の手を打ち得させない場合を假りにも生じさせたといふことであつてみれば、一死を以てつぐなひ得ないものがあらう。生產責任者、生產擔當者の刻下の戰局における責任は無限大である。その責任の重大なるを痛感されるとき、祈りの心が生れてくるではなからうか。

(名古屋市觀音町　村井還生)

訂正　週報三九〇號(四月十二日)十頁、海員養成所一覽表中、第一種期高等海員養成所の卒業後の恩典のうち、(兵曹長)とあるは(上等兵曹)の誤りにつき訂正します。

週報　昭和十一年十月一日 第三種郵便物認可　昭和十九年五月十七日發行　水曜日發行　定價一部五錢(送料二錢)　外國郵便は送料共十一錢
編輯者 情報局 東京都麴町區永田町　印刷者 東京都麴町區大手町 發行者 印刷局　申込所 全國各地 官報週報普及部 書店・新聞店・[illegible]